

先進地紹介

米子市と境港市の特徴を生かしたまちづくり

つくば市都市計画部都市計画課 主任 酒井 美 帆

■はじめに

令和6年(2024年)10月24日及び25日に、公益財団法人都市計画協会が主催するまちづくり拝見研修会に参加しました。1日目は「ウォーカブル推進都市」となり、歩いて楽しいまちづくりに取り組んでいる米子市、2日目は開通から30年を迎えても賑わい続けている「水木しげるロード」を擁する境港市の取組について学びました。

■米子駅周辺について(米子市)

米子駅は山陰地方の主要駅ですが、線路や鉄道施設によりアクセスが北側に限定されていたことから、移動の円滑化や歩行者の回遊性向上を図るため、南側から直接アクセスできるように南北自由通路と駅南広場を、そして駅ビルが併設されたバリアフリー対応の新駅舎を同時に整備しました。整備にあたって南北自由通路からの景色は、国の社会資本整備総合交付金や鳥取県の補助金、地方交付税等を活用し、市の一般財源は約2割に抑えられています。



南北自由通路からの景色

また、引き続き北側のロータリー整備による渋滞解消、駅南広場につながる市道の歩道拡張による回遊性向上、隣接するだんだん広場での行為許可基準の緩和や使用料の免除等などによるにぎわい創出など、「歩いて楽しい」に向けた事業に取り組んでいます。

■既存商店街の再整備について(米子市)

国のまちなかウォーカブル推進事業を活用し、既存商店街の回遊性向上のためのハード整備も多数実施しています。

劣化したアーケードを撤去して店舗前に緑道を整備し、歩行者専用道路に変更することでゆったり散策してもらえるようにしたところもあれば、空き地を防災広場にして定期的にイベントを実施できるよ



商店街の様子

うにしたところ、また、アーケードを新設して雨天でもイベントが開催できるようにしたところなど、商店街ごとの課題やどうしていきたいかという意向を尊重した改修が行われています。一部の空き店舗にはおしゃれなカフェができて若者が集まるようになり、その周辺に出店を希望する店舗が増えるなどの相乗効果も生まれています。

■水木しげるロードリニューアル事業について(境港市)

衰退しつつあった商店街を盛り上げるため、平成5年に道路拡幅や歩道への妖怪のブロンズ像の設置などにより水木しげるロードは整備され、人気の観光地となりました。平成27年度から令和元年度には、持続性を見据えたりリニューアルが行われ、歩行者が主役となる通りを整備するた水木しげるロードの歩道めの車道の一方通行化と歩道の拡幅、休憩場所の増設、また、観光客に宿泊までしてもらうための夜間演出照明(水木しげるロードの路面に電灯からゲゲゲの鬼太郎のキャラクター等が映し出される)によるにぎわい創出などが主な内容です。



また、昭和レトロな街並みの維持・形成のため、水木しげるロード街並みの手引き、街並み環境整備協定を策定し、建築物の新築等において、色や素材で街並みの統一感に寄与する場合には、境港市から補助金が交付される仕組みも運用されています。

■おわりに

米子市は、同時に複数の課題を解決しながら魅力を高める視点を持ち、1つの事業だけでなく複数の取組を実施して相乗効果をもたらしているところを見習いたいと感じました。境港市は、水木しげるというその土地にしかない魅力に特化したまちづくりで大胆に見えますが、地元や関係者の声を丁寧に把握した上で方向性を決定しているのが印象的で、決めたら信じてやり切る、そして事業終了後もさらに良くするための取組を続けていくことが成功の秘訣なのかなと感じました。

